

「釧路湿原自然再生協議会」

## 第2回 湿原再生小委員会

資 料

平成16年6月25日

釧路湿原自然再生協議会事務局

# 釧路湿原自然再生協議会

## - 第2回「湿原再生小委員会」 -

日時：平成16年6月25日（金） 13：30～15：30

場所：釧路地方合同庁舎 5階 共用第一会議室

### 議事次第

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議 事

1) 平成15年度の調査・検討成果について

2) 平成16年度以降の調査・検討方針について

3) 全体構想との関わりについて

4. その他

5. 閉 会

釧路湿原自然再生協議会  
湿原再生小委員会 委員名簿

計:34名

個人(16名)

(敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
1	植村 滋	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション北管理部
2	内田 泰三	帯広畜産大学 緑地学研究室
3	金子 正美	酪農学園大学 環境システム学部 地域環境学科 助教授
4	亀山 哲	国立環境研究所 流域圏環境管理研究プロジェクト 主任研究員
5	神田 房行	北海道教育大学釧路校 教授
6	新庄 久志	釧路国際ウェットランドセンター 主幹
7	仲川 泰則	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション 北管理部
8	永澤 広治	日本野鳥の会、鳥類標識協会
9	中村 隆俊	日本学術振興会特別研究員(北海道教育大学釧路校 教育学部生物学教室)
10	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究科 教授
11	西村 旬司	釧路湿原川レンジャー
12	橋本 正雄	釧路市博物館 館長補佐
13	蛭田 眞一	北海道教育大学釧路校 助教授
14	松本 文雄	タンチョウ保護調査連合
15	森 貴子	北海道新聞 釧路支社 報道部記者
16	山田 浩之	北海道大学大学院農学研究科 環境資源学専攻 地域環境学講座 農地環境情報学分野

団体(8名)

(敬称略、五十音順)

No	団体名	代表者名
1	釧路自然保護協会	会長 高山 末吉
2	釧路生物談話会	会長 住吉 尚
3	財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
4	財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤サンクチュアリ	チーフレンジャー 原田 修
5	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
6	タンチョウ保護調査連合	代表 正富 宏之
7	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 鈴木 順雄
8	ボランティアネットワークチャレンジ隊	代表 佐竹 直子

オブザーバー(5団体)

(敬称略)

No	団体名	代表者名
1	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 門田 功一
2	鶴居村農業協同組合	代表理事組合長 瀧澤 義一
3	幌呂農業協同組合	代表理事組合長 植田 晃雄
4	鶴居村商工会	会長 大津 泰則
5	王子製紙株式会社	代表取締役社長 鈴木正一郎

関係行政機関(5機関)

(敬称略)

No	機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 神保 正義
2	環境省 東北北海道地区自然保護事務所	所長 渡邊 綱男
3	釧路市	市長 伊東 良孝
4	釧路町	町長 菅原 澄
5	鶴居村	村長 日野浦 正志

## 第1回湿原再生小委員会の議事概要と今後の対応方針

項目	議事概要	今後の対応方針	備考
広里地区の自然再生	実生などのセイフサイト、更新する場所の議論がはっきりしない限り議論が進まない。萌芽の更新ではなく、実生で更新しているサイトがあるのかどうかを調査しなければならない。	有効な調査方法を検討し実施する。	
幌呂川地区の自然再生	高層湿原となっている旧幌呂川下流域にある池塘が少なくなっていることから、幌呂川の水位を上げることに意味がある。オンネナイ川も関係してくるのではないかと。上流の農地に大きく影響してくるのではあれば問題があるので、今後のどのように検討していくか議論が必要ではないか。	実施計画を具体的に検討する時点で、地域を交えて議論していく。	
	「湿原移行帯」という表現を詳細に検討していく必要があるのではないかと。また、この区域ではたまたま台地と湿原が混ざっていたものであるから、農地部分と湿原部分を分けて具体的な目標を立てる必要があるのではないかと。	平成16年度調査において、湿原移行帯としての環境の特徴を抽出する調査を実施する。また、リファレンスサイトを様々な環境に設定し、それぞれの環境にあった目標とする。	
	何をもち「良好な水環境の回復」としているのか、池塘の数を増やすのかあるいは水質の浄化をするのかどうかを明確にするべきである。	既存のデータでは、面積（数）が減少していることまで把握している。今後、水質等のデータを蓄積し目標設定を行う。水循環小委員会とも連携を図る。	
	今後の鶴居第2地区における農地防災事業の概況が分かる資料を本小委員会で開示していけば、議論が活性化していくのではないかと。	小委員会に関連する事項については、可能な限り情報の提供を行う。	
共通事項	地元の方々の意見を反映する手段やその機会を協議会としても具体的に提案していく必要があるのではないかと。	平成15年度は釧建が主催、町村が共催という形で意見交換会を開催した。今後は協議会としてこの会を運営していくことを検討してほしい。	
	湿原再生の目的はその減少や劣化を防ぐと明記されているが、そこに住む人にはどのような関わりがあるのかをもっと明確にしていく必要がある。また、過去の事業の中では必ずしも生活にプラスではなかったものもあることから、それらの反省点が活かされるような調査・検討をしていきたい。	地域住民の声を計画に反映させていくとともに、農業、河川等の関係機関と連携を図り調査・検討を進める。	
	各事業対象地の詳細な調査結果はあるが、流域全体に関するデータは少ない。全体の方向性を誤らないためにも流域をしっかりと捉えていく必要があるのでは。	関係機関と連携を深めデータの共有化を図る一方、不足しているデータについては計画的に蓄積を図る。	
	事業主体者間の情報の交流、共有化が重要ではないかと。また、自然科学的な調査に地域住民の人々の生活といった社会科学的な調査も加えて、全体的な情報の整理に基づいて議論していけばよいのではないかと。		

## 第2回 湿原再生小委員会

### 資料目次

	ページ
1. 各事業地区の状況	1
1-1 広里地区	1
1-1-1 広里地区自然再生事業について	1
1-1-2 既往の検討調査結果について	1
1-1-3 今後の調査検討方針について	7
1-2 幌呂川地区	15
1-2-1 幌呂川地区における湿原再生について	15
1-2-2 既往の調査検討結果(平成15年度まで)	18
1-2-3 平成16年度調査検討方針について	22
1-2-4 関連する農業事業調査について(地域整備方向検討調査:幌呂地区)	25
1-3 雪裡川樋門地区	29
1-3-1 湛水試験の目的と概要	29
1-3-2 既往の調査検討結果	30
1-3-3 今後の調査検討方針について	34
2. 全体構想との関わりについて	36

#### 〔資料編〕

広里地区

幌呂川地区

雪裡樋門・安原地区